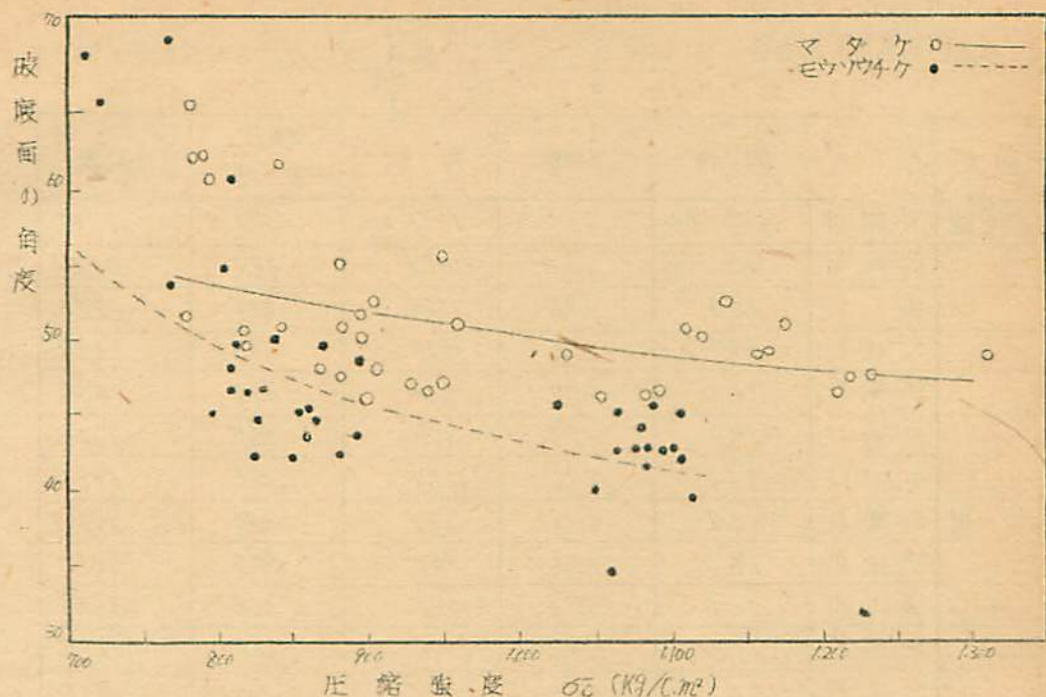


第 2 図



宮崎県産楠実の品種調査

宮崎大学 重松 義 則

日向の国は旧藩時代小浜令で統一した産物はないうのであるが延岡の内藤次大代藩主の親政守政順(文化3-天保5、西暦1816-1834)は明治江直しのその学問や産物の奨励を企て桜の五條目V.11ウ布告を発し、歴教廻りに茶桐杉竹等を植之領内全般の空地に植を植之植物方と稱する役人を置いて奨励監督に巡回せしめたのであり、鉄肥糞も同様に植栽を奨励したようで縣下各地に集团的栽培地がかなり多く散在し宮崎市にも「江平堀」と云つて天桐の美田植樹があり、赤松木馬場という長い並木道も残つていて昔の名残を留めてゐる。

昭和16年12月宮崎縣庁より植樹林産物統制令に基づき産物鑑定と価格設定の基準資料として各地産楠実の品種調査を筆指に依頼されたのであつた。先づ各生産単位組合の集荷場より房込楠実2kgを採取し、それより房長粒箱数は50房を、粒長は10粒を、果皮厚(横皮)は果実50粒分を供試料とした。合算率は果皮のみをソクマレーで石油エーテル浸

此による相違を以て示した。これは用いまいわのである。密産は葡萄糖と並糖の二様であるが、葡萄糖と云つても殊下一様の産類ではなく随分のまいわのもあり、並糖には太公望、長府、松山などが混合しているものである。調査結果を表示すれば次表の通りである。

種類	産地	府長	1房粒数	粒長	果実/比重	全粒数	
葡萄糖	木勝村	17.1cm	36.2	11.11mm	376.8	1714	
	高岡町	15.5	16.3	10.52	397	2124	
	坂町	15.7	27.4	11.43	401	1706	
	八代村	17.7	20.5	10.97	383	1799	
	三納村	16.9	30.9	9.96	392	1735	
	北浦村	14.4	19.3	9.23	360	2250	
	生目村	15.6	29.5	10.54	381	1984	
	並糖	木勝村	13.2	29.1	10.82	345	2449
		西谷村	19.0	39.5	9.47	374	3010
		坂町	11.0	35.8	9.01	365	3485
三納村		11.5	27.0	10.10	381	2165	
生目村		13.1	17.3	9.87	367	2211	
北浦村		14.2	39.0	10.97	368	2880	
瓜生野村		18.4	24.6	11.30	358	2058	
高岡町(1)		16.2	43.9	9.15	376	3241	
"(2)		15.0	48.5	9.97	341	2625	
"(3)		12.3	23.4	9.78	379	2461	
古江		14.9	48.1	8.6	—	—	
市坂(1)		15.4	66.0	8.9	—	—	
"(2)		13.5	42.9	8.7	—	—	
平均	葡萄糖	16.13	25.73	10.54	386	1902	
	並糖	14.44	37.30	9.74	365	2659	

是に伊東よりの搾油率はよく示されているが含糖量のことは辻本満丸氏の報告が如何には
 ○(これは何れも葡萄糖でこの枠の平均は32%に於いて良品種である)

これによると葡萄糖は並糖に比べて府長、粒長、粒重、果実量、含糖量が何れも大である。果実量及び果実としての含糖量は約2%程葡萄糖の方が大であるようである。最初目余り見られぬようである。單看の数字は30%以上の7個で池田河沿の1/3に相当する。

並糖に於ても可なり含糖量が多いものがある。尤に青宮崎縣産葡萄糖は含糖量が極めて大なるので外資者によつて買付けられて移出されるのである。果して優等な産物であると見れば大いに是正さるべきである。

△(産地である。果實は池田工場製糖は極めて少なく概ね福留産(大分県)※(当糖格で取引されているかどうかは事非なる異質性からして考えると疑問であつて此の實は)

1粒平均 重さ	果実 所込%	糠皮 果実	合脂量 糠皮	含水量	乾燥果実 中合脂量	乾燥済み果実 中の合脂量
0.2199	94.58	57.7	69.35	7.2	37.13	35.12
0.187	95.00	56.8	69.64	7.6	36.55	34.72
0.235	94.86	60.0	63.55	7.1	36.42	33.60
0.212	94.30	56.8	64.09	6.5	34.03	32.09
0.225	94.78	57.4	59.37	6.5	31.86	30.20
0.160	94.41	55.0	58.34	8.6	29.33	27.69
0.192	93.35	55.2	67.48	6.7	35.78	33.40
0.143	94.82	52.7	61.65	6.5	30.38	28.75
0.124	93.98	47.7	63.04	6.8	28.03	26.34
0.105	94.73	52.5	59.63	6.3	29.34	27.79
0.176	94.12	53.6	57.88	7.4	28.72	27.03
0.166	94.73	57.0	56.25	8.0	29.50	27.95
0.128	94.52	45.0	54.77	6.1	23.15	21.88
0.173	92.41	48.0	65.92	8.1	29.65	26.85
0.116	94.74	42.5	57.50	7.0	22.73	21.53
0.129	94.39	48.0	58.05	6.5	26.05	24.57
0.154	96.21	52.6	60.10	6.5	29.56	28.44
0.105	92.80	38.6	57.90	6.5	20.90	19.40
0.115	93.80	38.4	59.20	8.7	20.75	19.46
0.117	93.50	42.0	61.70	6.9	24.12	22.55
0.204	94.47	57.0	64.83	7.2	34.30	32.40
0.135	94.21	46.8	59.51	7.0	26.33	24.81

る。近縁は房の粒数が大であるので一房当りの粒重重量は両者は略相等しいのである。に懸実よりの搾油率はよく示されているが合脂量のことには辻本喬丸氏の報告があり他にはこれは何れも葡萄糖で此糖の平均は32%になつていて良品種である。

優格なのである。醸産糖実は地元工場の製糖は極めて少く概ね福西、佐賀、大分、鹿児島当産格で取引されているかどうかは素朴なる露民性からして有えろと疑前であつて此実は

斯く腐実の合柄にて宮崎縣産(南九州産)が極めて優劣なる所以は浸水から硬軟に於いて腐実が硬きを果實登にして白皮と腐實に巻まれていることは腐実の眠化作用位と好影響をもたらすものと解すべきであろう。種痘防疫として如何にも天然免疫が好適していることが判るのである。或は腐實を選定する人があるであろうが楳は結果樹木中これに対して最も抵抗力の大なるものであるからその必要は要らないのである。

日向古墳の出土木炭

宮崎大学農学部 重松 兼 則

1. 古墳と木炭

日向国(宮崎縣)は古代史蹟として二千有餘の古墳(築墓)があつて、其数の多いことは他國に見られないところで古代日向は古河の文化繁栄の中心であつたと伝えられる。古墳には円墳、前方後円墳、方墳の三つの形式があるが、その中前方後円墳には稀に木炭柳と言つて遺物を木炭屑で囲むものがあり、高橋町郊外の七江古墳群の一なる井田の「墓塚」がその代表的なものとされている。木炭柳は北九州には発見されない。神奈川縣日吉台で発見されたことのある。古墳に於ける木炭の使用は此處に防臭防解の目的にも用いられたものゝ如くよく発掘に際して出土する。

2. 出土木炭の調査

こゝに日向地方の古墳並に古墳時代よりも更に年代の古き彌生式遺物包含地から出土発見された木炭塊について炭質、組織、樹種などを研究したので報告する。試料は郷土史研究家の日野巖氏(現山口大学教授)の提供を仰いだもので、スンプ法にて木炭の虫型を採り別に樹種鑑定用木炭薄片フレパラートと比較対照して鑑識を試みたものであるが、土質を組織中に埋んでとりしても樹種を判別しないものもあつた。其初葉は木炭の一種である。

No.	出 土 地	推定年代(前)	三羽式 硬 度	樹種
1	東諸方郡大野原・古墳	1300 ~ 1400	1	シテ
2	同 彌生式居住地	1700 ~ 2000	4	コナラ
3	延岡市祝子・金葉丸平(古金田遺地)	1800	3.5	ミスメ
4	南那珂郡東郷村飯田字田辺・彌生式包含地	1700 ~ 2000	1	(広葉樹)
5	宮崎市柏塚町・古墳時代初期居住地	1500 ~ 1600	1	マツ
6	不 明・古墳時代	1300 ~ 1600	1	モミ
7	児湯郡市上原古墳	1300 ~ 1500	20	カシ